



長崎大学医学部創立160周年記念 市民公開講座・記念コンサート



ウェルナー・ヒンク

●第1ヴァイオリン

フーベルト・クロイザマー

●第2ヴァイオリン

ハンス・ペーター・オクセンホファー

●ヴィオラ

エディソン・パシュコ

●チェロ

Werner Hink

1st violin

Hubert Kroisamer

2nd violin

Hans Peter Ochsenhofer

viola

Edison Pashko

violin

～音と光と医療の進歩、175年の歴史を持つウィーン・フィル室内楽のタベ～

ウィーン弦楽四重奏団

平成29年 11月8日(日) 開場 17:00
開演 18:00

於 長崎大学文教キャンパス
中部講堂

プログラム

- 講演「音と光と医療の進歩」
相川忠臣氏 (長崎大学名誉教授)
- ウィーン弦楽四重奏団 コンサート
 - 主催：第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会
 - 共催：長崎大学医学部創立160周年記念会
「医工の絆」ハイブリッド医療人養成事業
 - 協力：株式会社メラー・タウキョウ

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
弦楽四重奏曲 第17番 変ロ長調 K.458 「狩」
Wolfgang Amadeus Mozart: String Quartet No.17 in B-flat Major K.458 "Hunt"

アントニン・ドヴォルジャーク
弦楽四重奏曲 第12番 へ長調 作品96 「アメリカ」
Antonin Dvořák: String Quartet No.12 in F Major Op.96 (B.179) "The American"

フランツ・ペーター・シューベルト
弦楽四重奏曲 第14番 ニ短調 「死と乙女」
Franz Peter Schubert: String Quartet No. 14 in D Minor D.810 "Death and the Maiden"

The Vienna String Quartet

- ウェルナー・ヒンク(第1ヴァイオリン) Werner Hink, 1st violin
ウィーン・アカデミー(現・ウィーン音楽大学)で、フランツ・サモイル教授の教えを受ける。1964年、ウィーン・フィルの第1ヴァイオリン奏者、1968年、第1ヴァイオリンの首席奏者、1974年にはコンサート・マスターに抜擢され、2008年までコンサート・マスターとして活躍した。ウィーン・コンセルヴァトリウム教授。(1943年生まれ)
- フーベルト・クロイザマー(第2ヴァイオリン) Hubert Kroisamer, 2nd violin
リンツでアルトゥール教授につく。その後、ウィーン・アカデミーでフランツ・サモイル教授の教えを受ける。1969年、チェコスロヴァキアで行われたコソリアン国際ヴァイオリン・コンクールで第1位入賞。1975年、ウィーン・フィルに入団。1978年、第2ヴァイオリン首席奏者。1982年より第1ヴァイオリン首席奏者。(1953年生まれ)

- ハンス・ペーター・オクセンホファー(ヴィオラ) Hans Peter Ochsenhofer, viola
グラーツに生まれる。ウィーン・アカデミーでフランツ・サモイル教授にヴァイオリンを、ジークフリート・フェーリングガー教授にヴィオラを学ぶ。1977年よりウィーン国立歌劇場メンバー、1980年から2013年までウィーン・フィルのヴィオラ奏者として活躍。1993年よりウィーン国立音楽大学ヴァイオラ科教授。1998年よりウィーン弦楽四重奏団のメンバーとなる。(1948年生まれ)
- エディソン・パシュコ(チェロ) Edison Pashko, violoncello
アルバニア生まれ。グーツ音楽大学とウィーン国立音楽大学で学び、最優秀の成績で卒業。リーツェン国際チェロ・コンクール(オーストリア)で入賞。ソリストとして国内外のオーケストラと共演する他、ウィーン室内管弦楽団、アンサンブル・ウィーン・コロージュの首席を務める。2009年ウィーン国立歌劇場管弦楽団、2013年9月ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。2016年よりウィーン弦楽四重奏団のメンバーとなる。(1973年生まれ)



The Vienna String Quartet

ウィーン弦楽四重奏団

ウィーン弦楽四重奏団は、元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサート・マスター、ウェルナー・ヒンクが第1ヴァイオリン、ヘルムート・ブッフラーが第2ヴァイオリン、ヴィオラにクラウス・バイシュタイナー、そしてチェロはラインハルト・レップという4名のフィルハーモニーによって、1964年に創設された。その後、1977年から第2ヴァイオリンがフーベルト・クロイザマー、1985年からはチェロがフリッツ・ドレシャル、1998年からはヴィオラがハンス・ペーター・オクセンホファーに替わって今日まで活動している。スタート時、ヴィオラとチェロがウィーン・コンツェルトハウス弦楽四重奏団のメンバーだったこともあり、直継のグループとして楽友協会の室内楽コンサートを担当するなど、人気団体として活躍してきた。

1973年からRCAと録音契約を結び、1974年の日本演奏旅行を皮切りに、海外への演奏活動を拡げる。ウィーン芸術週間ほもとより、ザルツブルク音楽祭、ブレゲンツ音楽祭、カリントニアの夏、イスラエル室内音楽祭等に出演し、レパートリーもウィーン古典派のハイドゥン、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトを中心に、ドヴォルザーク、スメタナ、ヤナーチェクといったスラヴ系の作曲家からウィーン近代派のツェムリンスキー、シェーンベルク、ウェーベルン、さらにショスタコヴィチやオーストリアの作曲家ヘルムート・エーダーといった現代作品の初演に至るまで幅広い。

RCA、カメラータに活発に録音活動を続け、日本では1982年に、シューベルト「死と乙女」四重奏断章で、音楽之友社が主催するレコード・アカデミー賞のベスト室内楽に選ばれた。その後も、シューベルトの弦楽四重奏曲全集や、モーツァルトの後期10大弦楽四重奏曲全集、ベルリン・フィルのカール・ライスターを迎えてモーツァルト、ブラームス、ウェーバーといった作曲家のクラリネット五重奏曲を続けて録音し、国際的にも高い評価を受けている。

1985年からクワルテットは「ウィーン八重奏団」の弦楽部を受け持つようになり、ウィーン・フィルの室内楽活動の多くが、彼ら4人の背にかかることになった。

2014年5月、本拠地ムジークフェラインのブラームス・ザールで創立50周年記念コンサートを行った。
2015年に、チェロのフリッツ・ドレシャルが急逝したことに伴い、エディソン・パシュコをメンバーに迎えた。

●会場：文教キャンパス・中部講堂(長崎市文教町1-14)
入場無料 自由席(ただし、事前申込が必要です)

●申込先：<http://www.congre.co.jp/jsre40/>

- 会場までのアクセス方法(ご来場は、公共交通機関をご利用ください)
JR長崎駅・JR浦上駅から
▶路面電車(赤迫行き)→「長崎大学前」下車
▶長崎バス(1番系統「溝川」、「上床」、「上横尾」行き)→「長崎大学前」下車

★お問い合わせ：第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会運営事務局
(株)コングレ九州支社 E-mail: jsre40@congre.co.jp
長崎大学医学部創立160周年記念会事務局
E-mail: med160@ml.nagasaki-u.ac.jp

